

日本労働法学会
-Japan Labor Law Association-

学 会 通 信

No.23 2007年4月16日

【巻頭言】学会におけるジェンダー統計

代表理事 石田 眞

昨秋の第112回大会から2008年春の第115回大会まで、代表理事の仕事を仰せつかった。伝統ある労働法学会の歴史の歯車を少しでも前に進めることができればと思っている。偶然のことではあるが、同時期に、私の所属する早稲田大学が学会事務局をお引き受けすることになり、同僚の島田陽一会員が事務局長に就任した。これまでの3年間、学会活動を真摯に支えていただいた青野覚前事務局長をはじめとする明治大学の関係者に心より感謝するとともに、今後とも、理事会と事務局が力を合わせ、会員の皆様とともに充実した学会活動を進められるよう、努力したい。

ところで、最近の学術大会に参加してみて感じるのは、女性会員の増加である。実際、昨秋南山大学で開催された第112回大会のシンポジウム（統一テーマ「労働者の健康と補償・賠償」）の報告者5名のうち3名は女性会員（小畑史子会員、上田達子会員、水島郁子会員—報告順）であり、女性会員が報告者の過半数を占めた。学術大会前日の理事会で配布された「大会テーマ・担当理事・報告書一覧」（1979年春の大会より）で確認してみると、これまでの大シンポジウムにおける報告者となる女性会員数は、せいぜい1名ないし2名であり、多くの大会では、ゼロであった。もとより、前回の大会シンポジウムにおいて報告者の過半数を女性会員が占めたのは、たまたまテーマに則して適切な報告者を配置した結果であることは十分に承知できることであるが、それでもなお、こうした結果は前回大会がはじめてであり、先の「一覧」と壇上に並ぶ報告者を見ながら、感慨深いものがあった。

このように、体感的には労働法学会における女性会員の増加を確認できるのであるが、これまで、それを正確に示す情報はなかった。それは、学会（ないし理事会）が会員における男女比を正確な数値として明らかにすることがなかったからである。現在でも、事務局にある会員名簿に性別の記載はない。したがって、完璧な数値を明らかにすることはできないのであるが、事務局に調べていただいたところによると、2007年1月現在で、会員数672名中女性会員は約111名であり（なお名前から性別を判別できない会員がいる）、女性会員の割合は16.5%である。では、この数字は過去の女性会員数および全会員におけるその割合と比べてどうなのであろうか。これを調べるのも容易なことではないが、浅倉むつ子会員から提供いただいた、日本学術会議が公表した1997年の数値によると、当時の会員数は607名、その内の女性会員は56名であり、女性会員の割合は9.2%であった（原ひろ子編『女性研究者のキャリア形成』226頁）。この10年で、会員数としては約2倍、割合としては約7.3ポイント、女性会員が増加したことがわかる。ただし、現在のところわかるのは以上までであって、どの年齢層が増加したのか等については不明である。

学会をはじめとする学術研究における男女共同参画が様々な角度から議論されている昨今（例えば、柏木恵子「学術研究における男女共同参画への歩み」『学術の動向』2006年3月号12頁）、労働法学会においても、正確なジェンダー統計を整備しておくことが必要であると私は考えている。

I 第113回大会のご案内

§ 日時 2007年5月20日(日) 9時20分～17時00分

§ 大会会場 法政大学 市ヶ谷キャンパス富士見校舎
住所：〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
電話：03-3264-9719

§ 大会次第

8:45～	受付開始
9:20～10:20	個別報告Ⅰ (休憩)
10:25～11:25	個別報告Ⅱ (休憩)
11:30～12:15	特別講演
12:15～14:00	総会・昼食・休憩
14:00～17:00	ミニ・シンポジウム
17:30～	懇親会

§ 懇親会会場 ボアソナードタワー26階スカイホール

1 個別報告(9:20～11:25)

第一会場

テーマ：「同一価値労働同一賃金原則の可能性と限界」(9:20～10:20)

報告者：橋本 陽子(学習院大学)

司会：山川 隆一(慶應義塾大学)

テーマ：「就業規則に基づく労働条件の不利益変更ードイツの事業所協定変更法理を手がかりとしてー」(10:25～11:25)

報告者：篠原 信貴(同志社大学大学院)

司会：土田 道夫(同志社大学)

第二会場

テーマ：「米国における未組織被用者の団体行動とその限界」(9:20～10:20)

報告者：木南 直之(新潟大学)

司会：村中 孝史(京都大学)

テーマ：「イギリスにおける労働法の適用対象」(10:25～11:25)

報告者：岩永 昌晃(京都産業大学)

司会：村中 孝史(京都大学)

2 特別講演 (11:30~12:15)

テーマ：『労働関係と社会保障』—その特質と相互作用について

報告者：荒木 誠之 (九州大学名誉教授)

3 総会 (12:15~14:00)

<総会議題>

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 2006年度会計報告 |
| 2 | 2007年度の予算について |
| 3 | 第114回大会およびそれ以降の大会について |
| 4 | 学会誌について |
| 5 | 日本学術会議について |
| 6 | 国際労働法社会保障法学会について |
| 7 | 入退会について |
| 8 | その他 |

4 ミニシンポジウム (14:00~17:00)

第一会場

テーマ：「雇用関係における文書の作成・管理・提出義務」

報告者：岸 巧 (弁護士)、開本 英幸 (弁護士)、浅野 高宏 (弁護士)

司会：道幸 哲也 (北海道大学)

第二会場

テーマ：「労働時間規制に対する学際的検討」

報告者：和田 肇 (名古屋大学)、樋口 美雄 (慶應義塾大学)、岩崎 健二 (労働安全衛生総合研究所)

司会：米津 孝司 (中央大学)

第三会場

テーマ：「非常勤職員をめぐる諸問題」

報告者：清水 敏 (早稲田大学)、勝亦 啓文 (桐蔭横浜大学)、下井 康史 (新潟大学)

司会：唐津 博 (南山大学)

(以上、敬称略)

* はがきの記入上のご留意事項

- ・同封のはがきで**5月7日(月)**までに出席をお知らせください。
- ・出席のはがきの所定欄は、変更の有無を問わず必ずご記入ください。
- ・やむを得ず欠席される場合でも、必ずはがきをご返送ください。
- ・大会当日の昼食・懇親会を申し込まれた方は、当日会場受付にて「昼食券」「懇親会券」を必ずお買い上げください。昼食券は1,000円、懇親会券は7,000円となっております。出席葉書返送後の昼食券・懇親会券に関する変更等は、**開催校**に直接御連絡ください。

Ⅱ 新入会員の紹介

第112回大会におきまして、本学会に8名の方が入会されました。新たに入会された方のお名前は以下のとおりです。なお、所属は入会当時のものを掲載しております。

川人博（弁護士）、倉重公太郎（弁護士）、古賀一志（旬報社）、小島妙子（弁護士）、
佐久間大輔（弁護士）、鄭永薫（京都大学大学院）、富永晃一（東京大学）、吉田肇（弁護士）

（50音順、敬称略）

日本労働法学会第113回大会出欠席確認はがき

2007年5月20日(日)に開催されます日本労働法学会第113回大会(於/法政大学)につきまして、該当する欄に「○」をつけ、5月7日(月)までにご返送下さい。なお、このはがきにご記入頂いた情報をもとに会員名簿の管理を行いますので、変更の有無を問わず全ての情報をご記入下さい。

1. 第113回大会に
・出席します
・欠席します

2. 当日の昼食は必要ですか
・必要です
・必要ありません

3. 懇親会に参加しますか
・参加します
・参加しません

変更がある場合には該当箇所に○をつけて下さい。

ふりがな (ひらがな)	
氏名	
7桁郵便番号	□□□□ - □□□□
名簿掲載希望住所	
電話番号	()
FAX番号、Eメールアドレスの掲載の可否について、 いずれかを○でかこんでください(どちらにも○がついていない場合は、本人の同意が得られなかったものとして、原則として掲載致しません。)	<input type="checkbox"/> 会員名簿に掲載を希望します <input type="checkbox"/> 会員名簿に掲載を希望しません <input type="checkbox"/> 会員名簿に掲載を希望します <input type="checkbox"/> 会員名簿に掲載を希望しません 前に変更のある場合は旧姓も併記してください

Ⅲ 事務局からのご連絡

1 会費納入および学会誌の発送について

<学会費について>

本年度(2007年度)の学会費については、同封の振込通知票をご利用の上、納入してください。本年度の学会費は10,000円でございます(名誉会員ならびに2007年度の学会費をすでに払い込まれた方は、振込の必要はありません)。

前年度(2006年度)分までの学会費を納入されていない会員の方は、未納分の学会費と本年度分の

学会費をあわせて納入くださいますようお願い申し上げます。理事会の申し合わせによりまして、学会費納入の催告にもかかわらず、2年を超えて学会費が未納となっている場合は、退会したものとみなされますのでご注意ください。

なお、郵便局で学会費を納入した際に引き替えに受け取る「払込金受領証」は保管頂きますようお願い申し上げます。

<学会誌の発送について>

第113回大会開催日より前に学会誌108号の発送を希望される場合は、**2007年4月30日(月)**までに学会費の納入をお済ませください。郵便局で振込をされた日から、実際に本会の事務局に納入通知が到達するまでには、1~2週間かかる場合もあります。この点をご留意の上、手続きを行ってください。4月30日を過ぎて事務局に納入通知が到達した場合には、学会誌108号の発送は大会終了後となる場合がございます。

2 学会誌110号投稿論文について

2007年に刊行される学会誌110号への投稿を希望される方は、大会前日の**2007年5月19日(土)**までに学会誌編集委員長(浜村彰会員)までお申し出ください。投稿論文の要領は次のとおりです。

制限枚数：200字原稿用紙60枚(12000字)

原稿締め切り期日：2006年6月25日(月)

投稿論文の執筆にあたっては、「投稿規程」を遵守してください。投稿規程の送付を希望される方は、事務局にご連絡下さい。

投稿論文は、日本労働法学会査読規程にもとづき査読が実施されます。掲載の可否は、査読委員会が決定し、ご連絡いたしますので、ご了解下さい。

3 次回114回大会について

日時 2007年10月14日(日)

会場 立命館大学

テーマ 「労働法におけるセーフティネットの再構築—最低賃金と失業保険を中心として(仮題)」
(大シンポジウム)

担当理事：中窪裕也(一橋大学)

司会：中窪裕也(一橋大学)、野田進(九州大学)

報告者：山下昇(九州大学)、柳澤武(名城大学)、中内哲(熊本大学)、丸谷浩介(佐賀大学)、
矢野昌浩(琉球大学)

(敬称略)

4 託児サービス業者の紹介

開催校の都合により、本大会におきましては託児サービス業者の紹介を行いません。あらかじめご了承下さいますようお願い致します。

5 事務局移転について

事務局が明治大学から早稲田大学に移りました。新しい事務局の連絡先およびオフィスアワーは以下のとおりです。

連絡先：〒169-8050

東京都新宿区西早稲田1丁目6-1

早稲田大学大学院法務研究科島田陽一研究室

TEL: 03-5286-1310

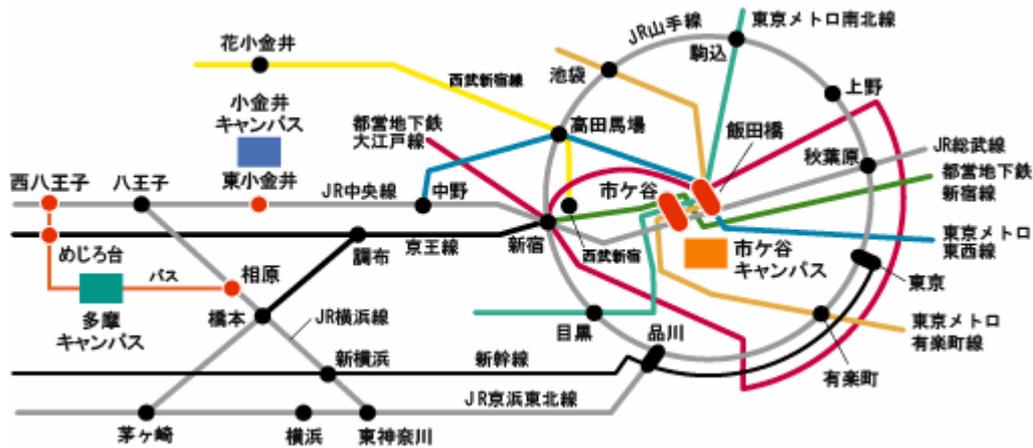
E-mail:rougaku@gmail.com

オフィスアワー：毎週水曜日 16:00～17:30

V 会場のごあんない

学会開催会場 キャンパス案内

法政大学キャンパス アクセス図



日本労働法学会 開催会場 法政大学市ヶ谷キャンパス富士見校舎



東京都千代田区富士見2-17-1 〒102-8160

TEL 03-3264-9240

<交通案内>

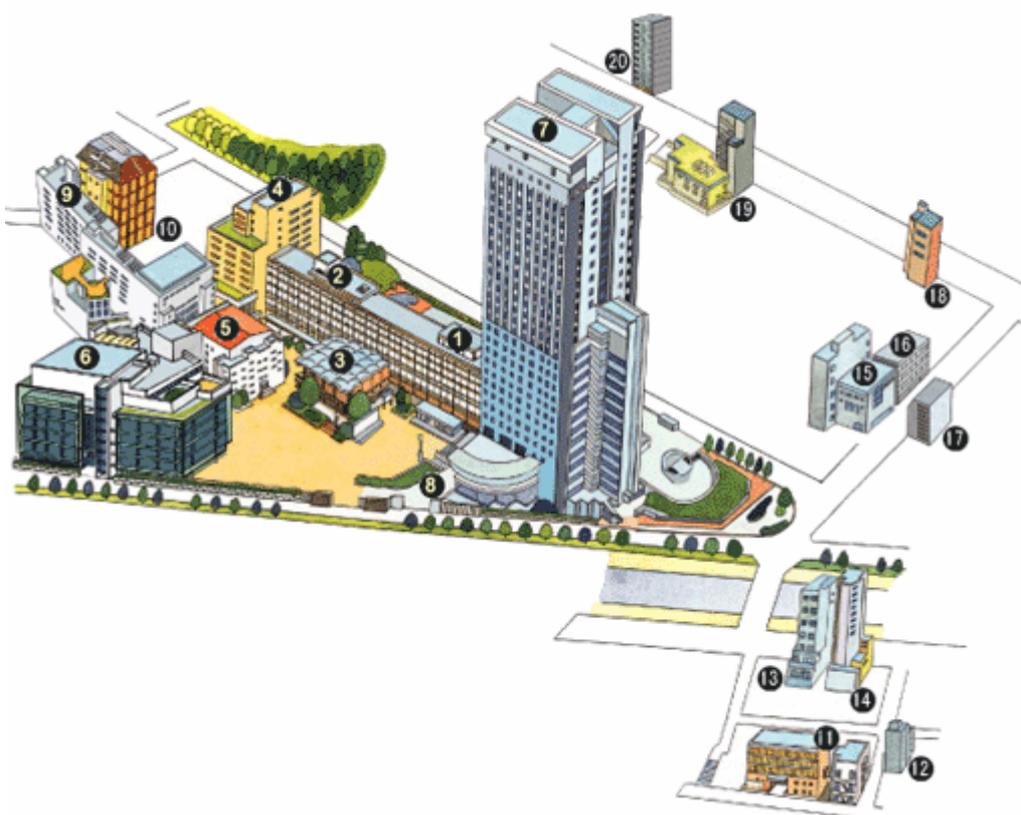
【JR線】

- 総武線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

【地下鉄線】

- 都営新宿線:市ヶ谷駅下車徒歩10分
- 東京メトロ有楽町線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 東京メトロ東西線:飯田橋駅下車徒歩10分
- 東京メトロ南北線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 都営大江戸線:飯田橋駅下車徒歩10分

市ヶ谷キャンパスマップ



(1)55年館 (2)58年館 (3)ピロティ (4)80年館<図書館> (5)第一校舎 (6)外濠校舎

(7)ボアソナード・タワー (8)守衛所 (9)富士見坂校舎 (10)総合体育館